

きがある。そのようなカルチャーショックを大学が提供していくべきです。

木船学長が就任されて1年がたちました。

今のお気持ちと、今後の意気込みをお聞かせください。

学長 一大学生は大人なので、自主的に考えて行動するだろう。大学がすべきことは様々なチャンスを提供することだ」と考えていたのですが、こちらが提供するチャンスを利用するのは一部の学生に限られることがわかりました。

面白いメニューを用意するだけでは、学生を導くことは難しいのかもしれない。自ら行動しない学生には、強制力を持って動かしていくことも必要なのではないかと強く感じています。

今後に関してですが、現在掲げている5つの特徴を大切にしていきたいと思っています。

1つ目は、国際性を養うこと。2つ目は、情報通信技術を利用した教育の推進。学



司会（同窓会 副会長）
藪下 靖浩



名古屋学院大学 学長
木船 久雄

内LANにサイバー自習室があるのですが、教員が手がけた問題が3万2000題ほど置いてあります。これは他大学にないシステムですね。

3つ目は、1年生からのキャリア支援・キャリアデザイン。4つ目は、地域を教材とし、地域と連携しながら、地域に貢献していくこと。5つ目は、丁寧な教育を行うことです。丁寧な教育とは、例えば新入生が履修を迷わないようオリエンテーションを1週間行ったり、クラス担任を用意してアドバイザーとして学生を導いたりということですね。

この5つの特徴をさらに伸ばしていくのが、私たちが当面力を入れていくべきことだと考えています。

大学が都市中心型へと変化していく中、他校に先駆けて名古屋市内に移った成果と影響をお聞かせください。

理事長 一例として、学生数が4000人弱から5000人に増えたという成果があります。これは学部増によるところもありますが、立地の良さに加え、都市でしか学べないことを学ぶ機会が増えたからではないでしょうか。大学が評価されていることであり、良いことだと感じています。

学長 名古屋キャンパスができた当初は地域住民の方から戸惑いの反応がありました。が、数年経ち、現在は「来ていただいていた」という声を多くもっています。若者が街に居ることが地域活性化につながっていますし、大学も公開授業やシンポジウ

ムを行っていることが、受け入れられている理由ではないでしょうか。

大学と同窓会が共に 新たなステージへ。

2013年4月に法学部が設置されますが、その意義や展望をお聞かせください。

学長 現代の企業には、最低限のコンプライアンスや順法精神が求められています。法学部では、コンプライアンスに関わる知識やマインドを持って、企業や社会に貢献していく人材を育てていくつもりです。

大学経営の観点からも伝統分野である法学部を有している方がバランスは良いですし、異なる学部を複数持つことで、リスクヘッジにもつながりますから。

理事長 社会の中で法律は絶対に必要なもの。学んだ知識を実社会で役立てられるよう、フィールド型の教育にも力を入れ

ると聞いています。私はそれが一つの売りになると思っていますね。

小川 どのようなフィールド型の授業をお考えですか？

学長 1年生では少人数制のクラスで法律入門セミナーなどを受講してもらい、2年生は法律系の事務所や企業の法務部などで、インターシップを経験してもらいます。模擬法廷を用意したり、裁判所に見学にいったりという授業も考えられますね。

それは本当に楽しみです。最後に、小川同窓会会長から、稲垣理事長と木船学長にメッセージをお願い致します。

小川 名古屋学院大学は、時代とともに変化し続けていますね。同窓会の活動も繰り返しが多かったのですが、昨年・昨年くらいに、若返りを図るため、3分の1ほどの理事の方に変わっていただきました。これからも定期的に若い方に理事になっていただき、同窓会でも斬新なアイデアを活動に加えていきたいと思います。理事長と学長にも協力をさせていただきたいと、同窓会からお願ひさせていただきました。

理事長 同窓会と大学は、一体になって行動していかなければなりませんね。同窓会のみなさんは様々な分野で活躍していると思いますので、ぜひ現役の学生をサポートしていただけるような体制を作っていただきたいと思います。こちらこそ、どうぞよろしくお願ひ致します。

「ご多忙の中、多岐にわたりお話しいただき、ありがとうございました。」

